

日進市における認知症カフェ（N-cafe）の 開設・運営支援の取り組み

日進市健康福祉部地域福祉課
堀之内美奈子 認知症地域支援推進員



- 人 口 90,974人 (平成31.4.1現在)
- 世 帯 37,042世帯
- 高齢者数(率) 18,125人(19.9%)
- 平均年齢 41.51歳
- 出生数(率) 1,004人(11.1%) (平成29年)
- 平均寿命 男82.1歳 女87.8% (平成27年)

※県内市町村においては男女共に1位

愛知県のほぼ中央部、西は名古屋市東部、東は豊田市・みよし市、南は東郷町、北は長久手市にそれぞれ隣接。

面積34.91平方キロメートル、東西8.9キロメートル、南北6.8キロメートルで、標高37メートルの日進市役所を中心に、周囲を標高50メートルから160メートルの丘陵地により形成。

市のほぼ中央部を天白川が東西に流れ、その流域の平地には農耕地が広がっている。

日進市の概要

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。

地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要**です。

地域包括ケアシステムの姿



認知症地域支援推進員



【推進員の要件】

- ①認知症の医療や介護の専門的知識及び経験を有する医師、保健師、看護師、作業療法士、歯科衛生士、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士
- ②①以外で認知症の医療や介護の専門的知識及び経験を有すると市町村が認めた者

【配置先】

- 地域包括支援センター
- 市町村本庁
- 認知症疾患医療センターなど



医療・介護等の支援ネットワーク構築

- 認知症の人が認知症の容態に応じて必要な医療や介護等のサービスを受けられるよう関係機関との連携体制の構築
- 市町村等との協力による、認知症ケアパス（状態に応じた適切な医療や介護サービス等の提供の流れ）の作成・普及 等



認知症対応力向上のための支援

※関係機関等と連携し以下の事業の企画・調整を行う

- 認知症疾患医療センターの専門医等による、病院・施設等における処遇困難事例の検討及び個別支援
- 介護保険施設等の相談員による、在宅で生活する認知症の人や家族に対する効果的な介護方法などの専門的な相談支援
- 「認知症カフェ」等の開設
- 認知症ライフサポート研修など認知症多職種協働研修の実施 等



相談支援・支援体制構築

- 認知症の人や家族等への相談支援
- 「認知症初期集中支援チーム」との連携等による必要なサービスが認知症の人や家族に提供されるための調整



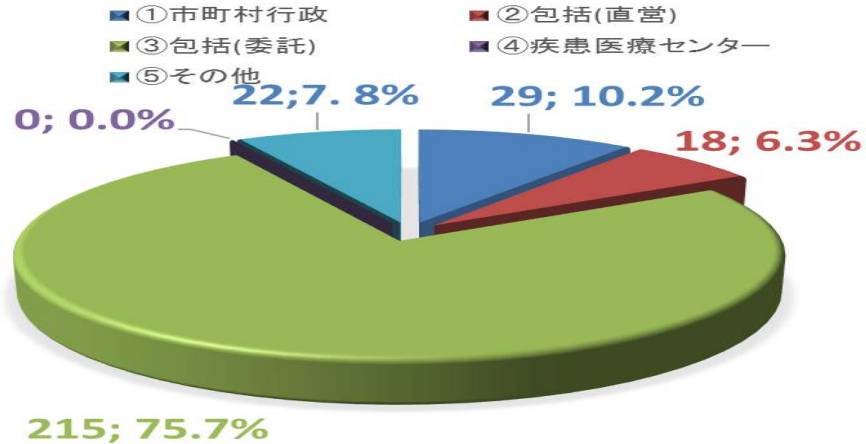
【事業名】認知症地域支援・ケア向上事業（地域支援事業）

【実績と目標値】2015(平成27)年度実施見込 839市町村 ⇒ 2018(平成30)年度～すべての市町村で実施

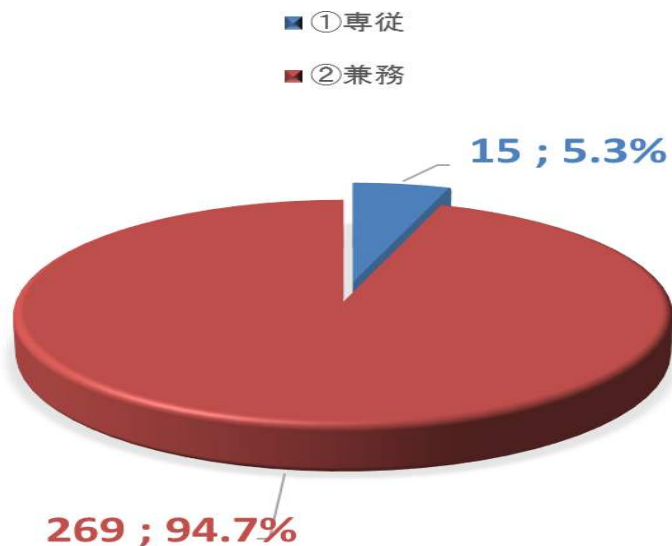
愛知県の認知症地域支援推進員配置状況

(平成31年4月1日時点)

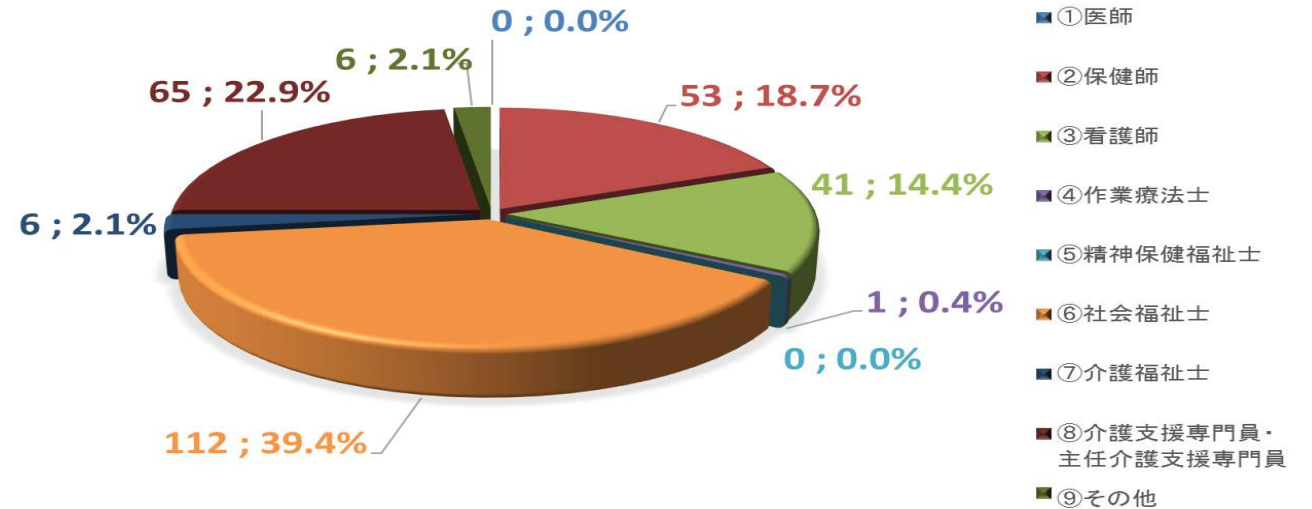
認知症地域支援推進員の
配置場所



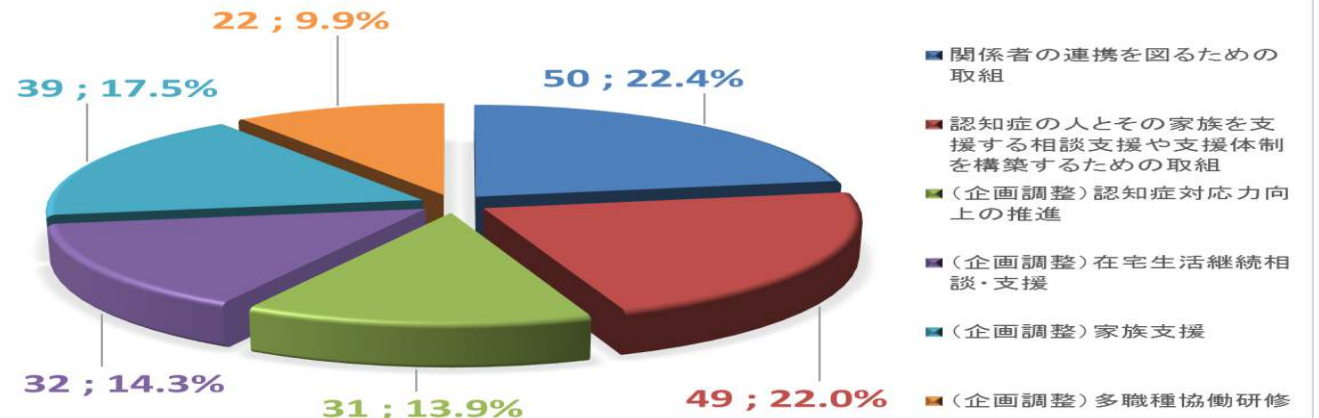
配置



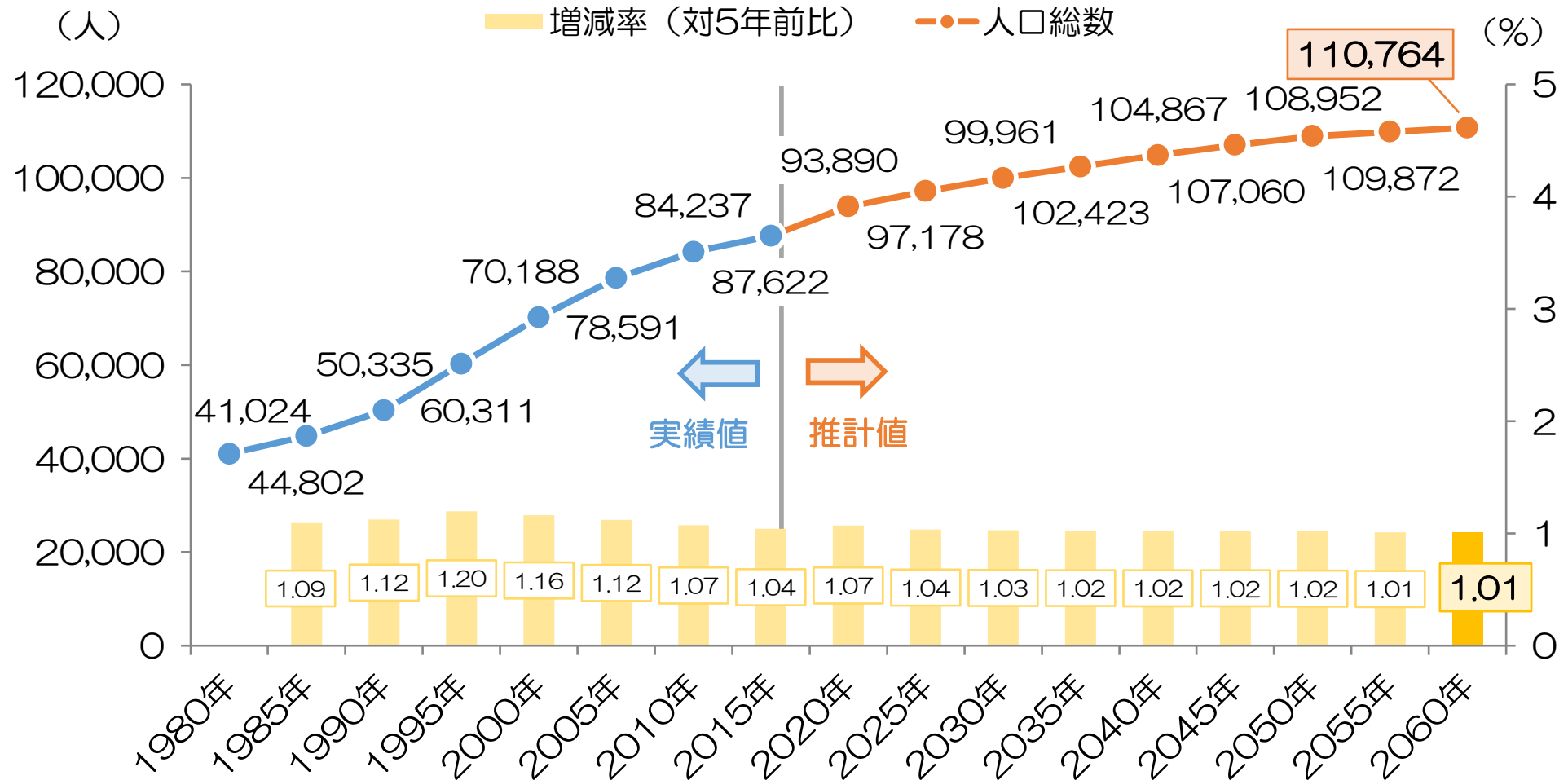
職種



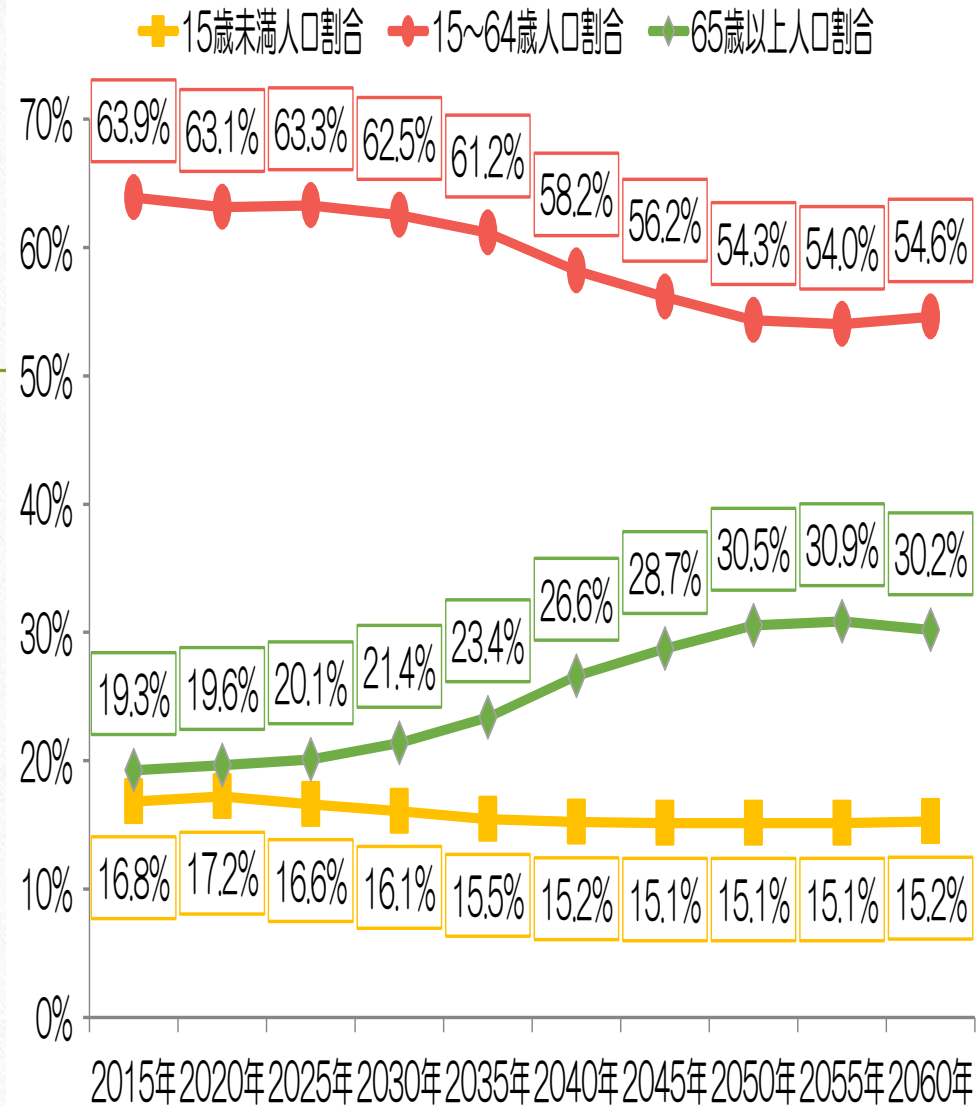
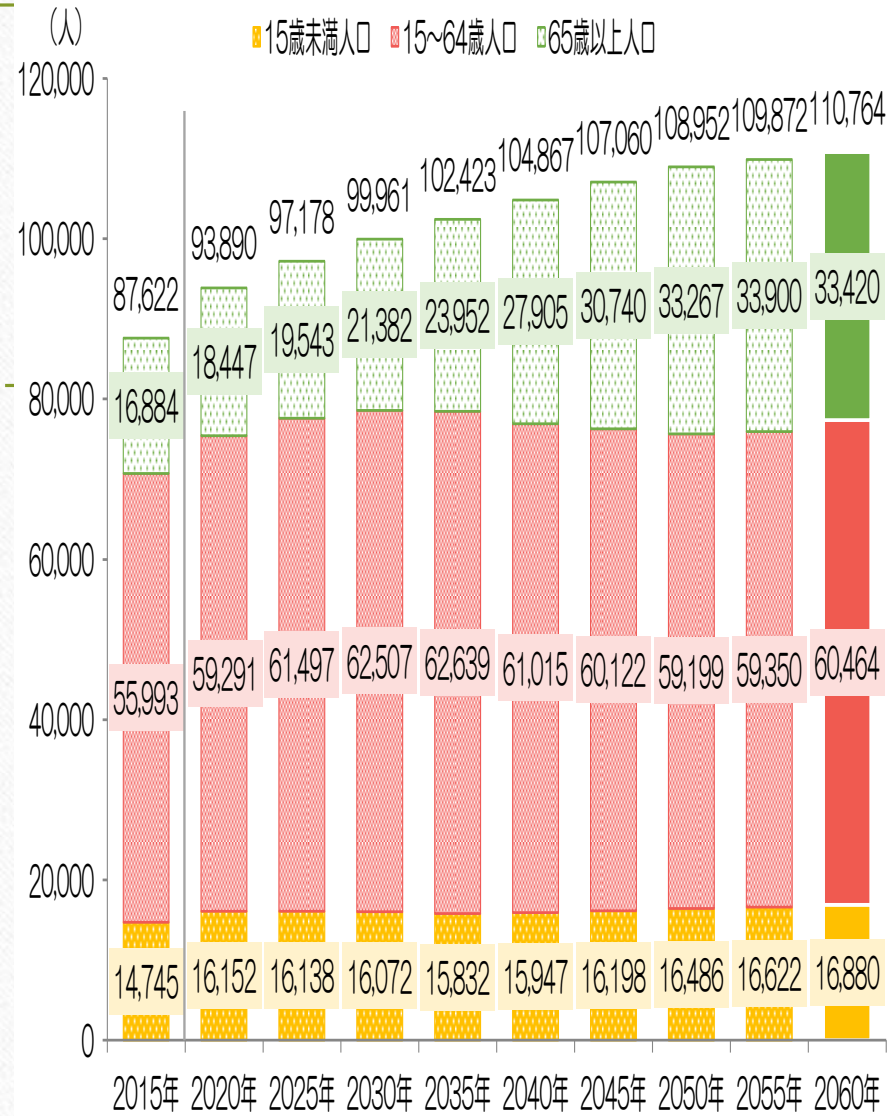
認知症地域支援推進員が企画・調整等を行う主な事業



総人口の推計値（自然体推計）

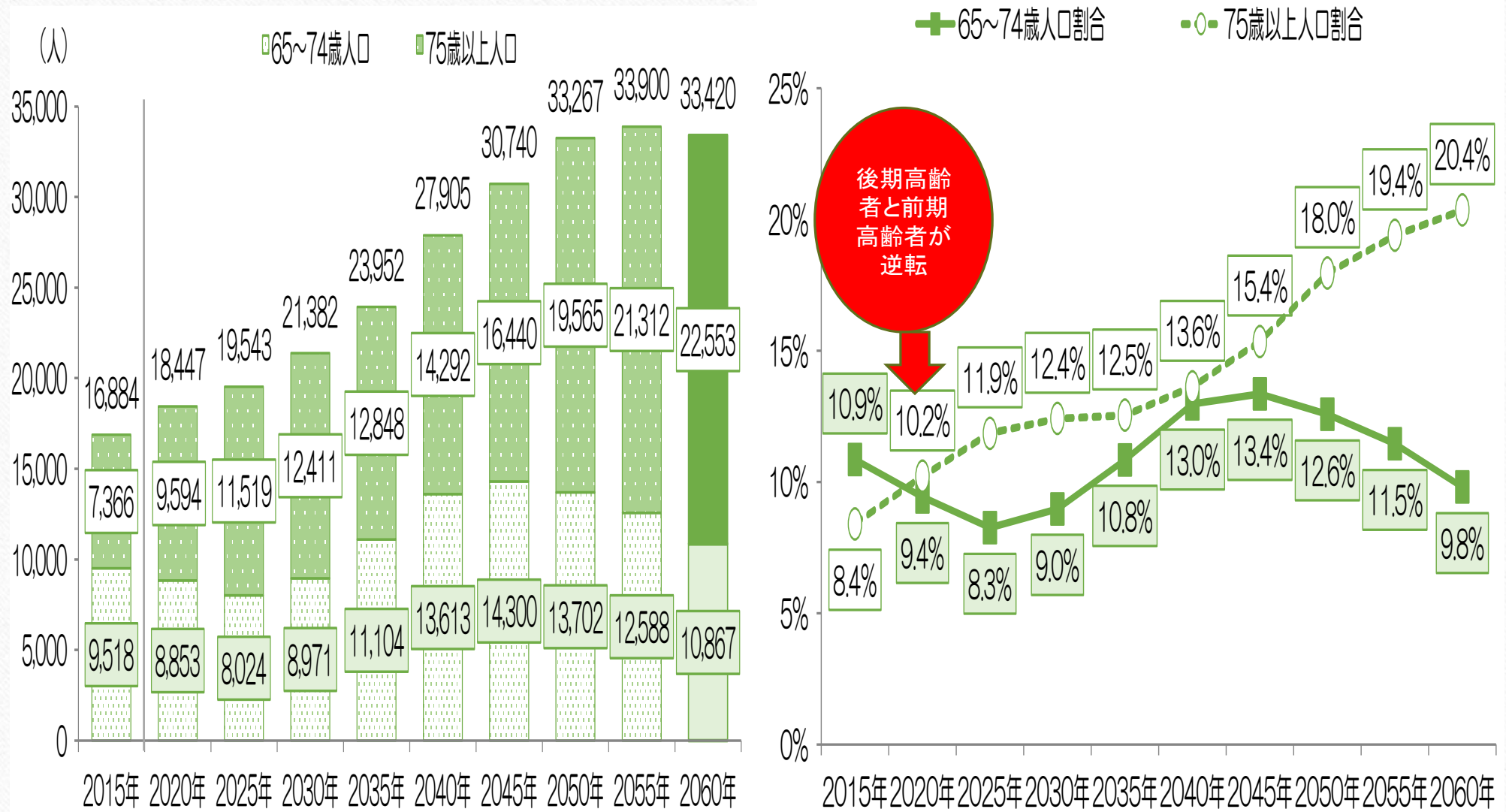


年齢3区分別人口割合の推計値(自然体推計)



出典 日進市人口ビジョン・総合戦略

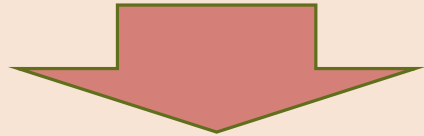
65歳以上人口の推計値(自然体推計)



地域包括ケアの課題(認知症に係る)

高齢化が目前となる地域において現れる大きな課題

- ・認知症の発症(出現率)は高齢になるほど高くなる
- ・早期介入の重要性(初期段階での適切な対応で進行抑止、危険防止)
- ・家族力の低下(高齢単身者、高齢夫婦世帯等)
 - 高齢者を支える人的・社会的資源の確保・創設
- ・認知症を正しく理解し、認知症の人の思い、家族の思いを受け止められる人や地域を創るためのいろいろな角度からのアプローチ



「認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域

～わたしが認知症になったとき～」

自分ごととして捉えられるか？

市が現在進めている認知症施策

(1)認知症初期集中支援事業(H30.4)

- ・認知症初期集中支援チーム員会議・チームミーティング

(2)認知症地域支援・ケア向上事業

- ・認知症地域支援推進員設置(H30.4)
- ・認知症カフェの設置推進(H30.4)
- ・認知症ケアパスの活用(修正予定)

(3)家族介護支援事業

- ・やさしい介護教室(高齢者の介護プログラム)
- ・認知症家族支援プログラム(隔年開催)

(4)家族介護継続支援事業

- ・認知症家族介護者交流会
- ・介護者のつどい(ひだまりの会)
- ・リフレッシュ事業(日帰りバス研修、料理教室)

(5)認知症高齢者見守り事業

- ・見守り協定(金融機関、新聞販売店、他)
- ・徘徊高齢者搜索模擬訓練の開催支援
- ・認知症やさしい手ネット登録事業
(本人用・支援者用)の啓発
- ・位置情報GPS利用促進(助成)の啓発
- ・やさしい手シンボルマークグッズの活用
(キーホルダー、反射板シール等)

(6)認知症の正しい理解啓発

- ・認知症サポーター養成事業の推進
- ・認知症サポーターの活動支援(課題)
- ・医師による地域出前講座(医療介護連携事業の一環)
- ・図書館を活用した認知症図書コーナー設置(H30.9)
- ・介護予防講演会「認知症」
- ・広報・HP・パンフレット等による啓発

(7)介護予防普及啓発事業

- ・介護予防講演会

(8)その他

- ・関係者・機関・団体・民間企業等のネットワーク構築の推進(課題)
- ・地域ケア会議へ参加
- ・本人ミーティング(未着手)

認知症カフェについて

認知症カフェの流れ

《世界の認知症カフェ》

オランダで始まったアルツハイマーカフェが世界各国に広がる。

2013年イギリスで「G8認知症サミット」開催。認知症問題に共に取り組む「宣言」と「共同声明」が合意 ←世界的共通課題と確認

《日本の認知症カフェ》

2012年認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)に明記

2015年認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)に全市町村設置を目指すことが示される

認知症カフェの定義はあるのか

認知症の人と介護する家族に対する支援の一環として認知症カフェの設置を位置づけ、「認知症の人、介護家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場」と記述されている。

※認知症カフェの明確な指針、主催者、具体的な内容等運営方法については示されていない。⇒ 運営者の捉え方により、様々であり、地域の実情に合わせて様々な運営方法がとられている。

公的サービスを受けられる以前のサービス空白期間に必要な場

認知症は「何もできなくなる」、「何も分からなくなる」病気と捉え、認知症と診断された人やその家族は混乱したり、動揺する 경우가少なくない。また、初期の認知障害の段階で不安を抱き、しかし、相談できる場がわからないなど、認知症の初期段階で受けられるサービスはほとんどなく、相談しやすい環境が整っていないのが現状。

認知症カフェに参加することで、認知症についての理解を深め、早期受診につながったり、これから必要な対応についていろいろな情報を得られたりする場としても役割が大きいと考えられる。

認知症カフェの7つの要素

（認知症カフェ運営マニュアルより）

- ・認知症の人が、病気であることを意識せずに過ごせる。
- ・認知症の人にとって、自分の役割がある。
- ・認知症の人と家族が社会とつながることができる。
- ・認知症の人と家族にとって自分の弱みを知ってもらえていて、かつそれを受け入れてもらえる。
- ・認知症の人とその家族と一緒に参加でき、それ以外の人に参加・交流できる。
- ・どんな人も自分のペースに合わせて参加できる。
- ・「人」がつながることを可能にする仕組みがある。

サロンやデイサービスと認知症カフェの違い

- ・高齢者が集い交流する場サロン等が市内にたくさん設けられているが、認知症カフェでは認知症のことを気軽に話せたり、参加者ご本人を排除せず、心地よく、安心して過ごせるよう対応できることが必要となる。（通常のサロンではスタッフはもとより、参加者間で無意識の排除意識が働き、本人・家族がもう参加したくないと家から出なくなるケースが少なからずある。） ⇔ これができているサロンもある。
- ・デイサービスは介護保険事業の一つ。認知症カフェは「預けておけば世話をしてくれる」というところではなく、介護を行うのではなく、認知症の人にも自由に過ごしていただける場である。

N-cafe(認知症カフェ)



日進市内の認知症カフェ[N-cafe]

平成30年4月 本郷地区に「オレンジカフェむつみ」(市の委託事業)開始

※前年度にNPO法人が蟹甲地区に「you,i cafeあい工房」を開設

10月 「N-cafeスターバックスコーヒー日進香久山店」開始

10月 東山地区に「わいわいカフェ」が開始される

- 市内認知症カフェの案内チラシ作成にあたり、市内の認知症カフェの総称としてN-cafeとすることで4つのカフェの了承を得る。
- 平成31年2月 愛知県認知症カフェサミットに「N-cafe 日進市」として出展し、4つのカフェを展示ブースで紹介。
- 平成31年3月 出前認知症カフェ「ケアラズカフェ」を中央福祉センターで開催し、4cafeの初顔合わせの場を設定した。
- R元年7月から5つ目のN-cafeが開設された。

N-cafe(認知症カフェ)の意味

- N-cafeは日進市内の認知症カフェの総称:Nは日進市、認知症、自然ナチュラルの頭文字
他にも にこやか、にこにこ、にっこり、なごやか等優しいイメージを浮かべます
- 認知症の人や家族が住み慣れた地域で普通にコーヒーなどを楽しみながら、安心して過ごせる居場所
- 認知症の人同士や家族同士がそれぞれ交流できる場
- 専門職につながるができる場
- 認知症の人や家族が自分の地域内外を問わず、認知症カフェに参加でき、 また、相談ができる場
- 地域の人や専門職などと顔見知りになっていることで、自然な見守りができる地域ができる。
- 認知症の人が地域の人などと交流できることで、社会寿命の延伸につながる。
- 地域住民も認知症のことや認知症の対応について知ることができる。

※地域の集まりにおいて認知症の人を上手に受け入れる配慮ができるところでは本人の居場所となる。
しかし、支援側だけでなく参加者間における受け入れが必ずしも当事者にとって心地よい場所にならないこともあり、見識を持ったスタッフが全体と本人を見ながら対応できる認知症カフェに役割がある。

※今は支援者の立場で関わっているが、いつの間にか、支援される側になっていても、その時、その時は、考えることはできるので、支援するつもりで役割を持って参加できる。

認知症カフェの参加状況

	N－c a f eスターバックスコーヒー日進香久山店				
	参加者 数	再 掲		備 考	
		本人	家族		
平成30年10月	3 1	1	3	〈運営方式〉 平成30年10月スターバックスコーヒー店の会場提供等があり、市・地域包括支援センター、むつみ苑スタッフの運営協力体制により開始。	
1 1 月	2 1	0	3		
1 2 月	2 2	0	7		
平成31年 1月	2 5	1	8	〈その他参加者〉 ・三者スタッフ4～6人、傾聴ボランティア、 ・地域関係者（民生委員児童委員、主任児童委員、地区関係者、S C（1・2層）、スターバックス他店、市会議員、視察市町等	
	2 月	3 2	0		7
	3 月	2 3	0		6
4月	2 3	3	6	〈特徴〉 ・本人参加は少ない。デイサービスなどを利用中に介護者が参加。介護者間で経験や情報を伝えてくれている。役割を意識してくださっている介護者もいる。	
計	1 7 7	5	4 0		

19

認知症カフェの参加状況

	N - c a f e むつみ			備 考
	参加者数	再	掲	
		本人	家族	
平成30年 4 月	1 2	0	0	〈運営方式〉 平成30年4月市からG H むつみ苑に委託し開催 〈その他参加者〉 むつみ苑スタッフ1～3人、市（認知症地域支援推進員等） 地域包括支援センター、他事業所ケアマネージャー 地域関係者等 〈名称〉 当初「オレンジカフェむつみ」の名称を使用していたが、 N - c a f e を総称としたことから現在の名称に変更した。 〈特徴〉 本人と一緒に参加割合が高い。 本人は一定の時間は別の部屋で体操に参加できる。
5 月	7	0	0	
6 月	7	0	2	
7 月	9	0	1	
8 月	1 0	1	1	
9 月	1 9	1	2	
1 0 月	1 0	0	1	
1 1 月	1 1	1	1	
1 2 月	8	1	1	
平成31年 1 月	5	1	1	
2 月	1 0	2	3	
3 月	8	1	1	
計	1 1 6	8	1 4	

認知症カフェの悩み

《利用者側》

「自分とは合わない」、「思っていたのと違った」、「本人と一緒には嫌」、「あずかってほしい」、「行くまでがたいへん」 等々の声

《専門職・地域関係者》

市に認知症カフェは不要。地元の人にはN-cafeに行く人は認知症と言って参加しないよ。地元の人には躊躇する人が多い。

《運営者側》

「利用者が少ない」、「スタッフの確保がたいへん」等、運営を続けることが難しいと感じている。

N-cafeのこれから

「自分が、家族が認知症になっても安心して暮らし続けることができる地域であってほしい」から、悩みながら、試行錯誤しながら、認知症の人、介護家族の人、地域の人、専門職等、皆さんと一緒に前進あるのみということでしょうか。

皆様の声をお待ちしています。



ご清聴ありがとうございました。

お疲れさまでした。